

MEDLINE 研究の変遷

阿部信一

東京慈恵会医科大学医学情報センター

世界約 70 ヶ国の 4,600 誌以上から医学文献データを収録している MEDLINE データベースは、1970 年代のサービス開始当初からその有用性に関する調査が活発に行われ、米国医学図書館協会の機関誌(現在、Journal of Medical Library Association)をはじめ、様々な雑誌や学会等で報告されてきた。

今回、特に欧米において過去 30 年間に行われてきた MEDLINE を対象にした研究について分類し、その傾向や成果についてまとめる。

最近のものだけでも、以下のように様々な観点から MEDLINE そのものを対象にした調査研究が行われている。

- ・ MEDLINE の効果的な検索方法の検討 (検索方法による再現率、適合率の比較を含む)
- ・ 検索システムによる MEDLINE 機能の比較 (マッピング、SDI など)
- ・ PubMed の検索機能の検討 (Related Articles、Clinical Queries など)
- ・ 検索システムによる再現率、適合率の比較 (Dialog、OVID など)
- ・ 検索者による再現率、適合率の比較 (図書館員と医師、図書館員と薬剤師など)
- ・ 他のデータベースとの収録範囲・再現率・適合率の比較 (EMBASE、CINAHL など)
- ・ ハンドサーチとの再現率・適合率の比較
- ・ MEDLINE の検索方法の教育 (トレーニング)
- ・ 学生、医療従事者の MEDLINE 検索の分析
- ・ MEDLINE 収録データの分析 (書誌やインデクシングの正確性、使用言語など)